

## 2010年度 利用者等動向調査報告書の概要

### 調査方法

過去に実施された、利用者意識調査の結果を踏まえ、本年度の調査を実施した。

調査日:8月7日(土)~8月10日(火)の合計4日間

調査地:利用者へのアンケート調査の依頼はカムイワッカ湯の滝バス停付近

調査時間帯:午前9時(始発バス到着後)から16時までの7時間

### 調査結果

#### 1:回収率

4日間で600通を配布し、うち255通を回収した。回収率は42.5%であった。これまでに行った配布/回収方式によるアンケート調査の中では、比較的良好であった。

#### 2:個人属性

性別及び住所について、その構成割合に過年度と大差なし。年齢については、20代の回答者に占める割合が減少傾向。

性別は男性が49.0%。北海道内からの利用者が31.8%。2名での利用が40.4%、単独および5人以上が11.0%。職業は、会社員が39.2%、主婦・主夫が17.6%、公務員が15.3%。

#### 3:来訪状況

知床で利用した交通手段は自家用車が48.6%、レンタカーが38.4%、観光バスが10.6%、路線バス(シャトルバスを除く)が10.6%、オートバイが2.0%、自転車が1.2%であった。カムイワッカ湯の滝に初めて訪問した利用者は74.5%であり、二回目は16.5%、三回目は7.1%であった。カムイワッカ湯の滝を訪れた利用者が他に訪れている場所は知床五湖が最も多く、次に知床自然センター79.2%、知床峠64.3%と続く。

#### 4:来訪目的

自然の美しさを見ることができるという項目に対して、とてもそう思うとした回答者の割合が80.4%で最も高く、次いで自然の中で野生動物と会うことができるに対しては同60.4%、日ごろの疲れを癒すことができるに対しては同49.0%、友達や家族と一緒にいることができるに対して同41.2%の順で重視されていた。本年度の調査は、過去の項目に少々変更を加えているが、知床固有の自然の中での、非日常体験を味わうことが来訪目的として重視されていることには変わりはない。

#### 5: 車両規制への対応

シャトルバスの運行と一般車両の通行規制が行われていることを事前に知っていた利用者は71.8%で、その情報の入手先はインターネットが36.8%で一番多く、雑誌18.1%、テレビ12.3%。

「工事が一年早く終了し、今年も自分の乗物でカムイワッカ湯の滝まで行けることになっていたとしたら、訪問日を変更して一般車両の通行止期間を外して訪問したか」を聴取したところ、訪問日を変更しなかったと答えた回答者は88.4%、訪問日を変更したと答えた回答者は4.7%であり、仮に通行規制が解除され、繁忙期以外に自家用車で通行できるようになったとしても、自家用車を通行するためだけに日程を変更する利用者はあまり存在しないと言える。

#### 6: 望ましい車両規制期間

「一般車両の通行規制を通年で行うのがよい」としたのが63.1%、「混雑する7月から9月だけ一般車両の通行規制を行うのがよい(今年と同じ)」としたのが30.6%、「特に混雑する連休やお盆などの特定日だけ一般車両の通行規制を行うのがよい」としたのは3.5%、「一般車両の通行規制を行う必要はない」としたのは1.6%であった。過去の結果では、混雑する7月から9月だけ一般車両の通行規制を行うのがよいとした回答者が一番多かったが、本年度はより厳しい車両規制を求める回答者が多かった。これは、過去の調査では、知床五湖などでもアンケート票が配布されており、カムイワッカ湯の滝には訪れていない車両規制に否定的な利用者にもアンケート票が渡っていたためであると考えられる。

#### 7: シャトルバスの運行間隔

利用者の70.6%は20分の運行間隔を希望していた。

#### 8: シャトルバスの同乗者

家族が最も多く72.9%であり、過去の結果と同様に家族利用が主体であった。

#### 9: シャトルバスの利用料金

妥当な金額であるとする回答者が58.0%で最も多く、次いで高いと感じるとした回答者が37.6%であった。ただし、実際に料金を支払った回答者に対する調査結果であり、料金が高くカムイワッカ湯の滝を訪れなかった利用者は含まれていないことに注意が必要である。

#### 10: シャトルバス内での車内放送について

シャトルバスの車内放送は比較的高い評価を得ている(「現状でよい」が87.8%)。